

# 政治研究結果報告書

—政治研究助成—

西暦 2025年（令和7年）2月28日

一般財団法人 櫻田會  
理事長 増田 勝彦 殿

研究者名 周東 美材

大学名・職位 学習院大学・教授

第42回（2023年度）櫻田會政治研究助成による研究を下記のとおり実施しましたので、その結果について報告します。  
※印の記入項目に関する貴會ホームページへの掲載についても同意いたします。

記

※研究の名称（英語も記入） Research Theme

戦後日本における放送メディアの再編とアメリカナイゼーション  
The Reorganization of Broadcasting and Americanization in Postwar Japan

※英文抄録（研究目的、経過、成果 250words 以内） Abstract (Purpose, Process, Significance)

The purpose of this study is to clarify Americanization in the restructuring of postwar Japanese broadcast media. In particular, this study focuses on the aspects of history of entertainment, and analyzes new documents. This study has two main issues. The first is the archiving of documents provided by Natsue Washizu (stage name Kurumi Kobato). The second is an analysis of Johnny Kitagawa's relationship with the U.S. military base. He came to Japan as a member of the Military Assistance Advisory Group (MAAG) and worked in military affairs before making a move into the Japanese entertainment industry. As a result, it became clear that the broadcast media in postwar Japan was reorganized under the influence of Americanization. In particular, with regard to research on Johnny Kitagawa, this study has published two papers and others.

※研究の目的・研究方法・意義（日本文 600字以内）

本研究の目的は、戦後日本の放送メディアの再編におけるアメリカの影響を明らかにするものである。とりわけ、本研究では芸能史の側面に着目し、新資料の整理と分析を進めた。

戦後日本の放送メディアは、占領軍の強力な関与と指導のもとに置かれた。占領当初からGHQは各種の検閲や情報統制を実施したが、なかでもテレビはポスト占領期において親米世論を間接的に形成していくための有力な手段と見なされた。占領期における放送メディアに関し

では、メディア史研究を中心に優れた考察が蓄積されているが、芸能に関する研究は必ずしも十分ではなく、多くの資料は散逸した状態にある。

そこで、本研究では主にふたつの課題を設定し、1950年代から60年代前半の資料を中心にそれぞれ整理と分析を進めた。(1)ひとつは、鷺津名都江(芸名「小鳩くるみ」)氏より提供された資料の整理・アーカイブ化である。鷺津氏は、テレビの試験放送時からカメラの前に立ち、国産初のテレビドラマの主演を務めるなどした人物である。(2)もうひとつはジャニー喜多川と米軍基地との関係に関する資料の収集・分析である。ジャニー喜多川は、アメリカの軍事援助顧問団(MAAG)の一員として来日し、軍関連の業務に従事しながら芸能界へと転身していった。本研究は、これらふたつの課題に関する資料の整理と分析を進めることで、戦後日本の放送メディアとアメリカナイズーションに関する新たな知見の提示を目指した。

#### ※研究経過と結果の概要 (以下の欄に35行以内(1500字程度)にまとめる)

上記の課題のうち(1)鷺津氏資料の整理と分析については、下記のような手順で進めた。鷺津氏は1952年のデビュー以来、芸能活動の個人事務所をもち、デビュー時からの資料(手紙、台本、写真、映像、音源、楽譜、衣装、日誌、取引先人名・住所録など)を保管してきた。これらの資料はいずれも貴重なものであるが、そのなかでも、彼女が主演を務め、「国産初のテレビドラマ」ともいわれる「ぼんぽこ物語」(KRT(現・TBS)、1957年11月放送開始)の台本などはテレビ局のなかにも保存されておらず、放送史上きわめて重要な資料である。

本研究では2022年5月からこれらの資料の整理に従事しているが、総量で大型段ボール箱30箱ほどに及ぶ膨大なものであり、その全貌の把握は容易ではない。そこで、まずは目録を作成することとし、そのフォーマットには国際公文書館会議による「国際標準記録史料記述の一般原則(ISAD(G))」という標準規格を採用した。これにより、ID番号を付与し、その結果、資料点数は984点(2025年2月現在、未分類)となった。次に、資料のなかでも分析上優先度の高いものについては、別途高精細デジタル撮影を行っているが、この目録情報と画像情報をもとにアーカイブ構築を進めた。本年度整理できたのは全体の30%ほどに留まるため、資料全体から見れば積み残された作業はあるが、テレビ放送黎明期における制作過程や身体表象の実像を解明するための基盤を確立することができた。

(2)ジャニー喜多川と米軍基地との関係に関する資料の収集・分析については、考察対象の性質上、新資料の発見には限界があるものの、『Thank You & Forever Johnny』を入手することなどによって新たな知見を得ることができた。本資料は、ジャニーズ喜多川のお別れ会で限定的に配付されたもので、年譜や写真などが多数掲載されているが、「社史」すら存在しないジャニーズ事務所を考察していくうえで基礎資料となる。これらの資料をもとに、ジャニー喜多川の足跡を再構成し、1950年代から60年代の動向を中心に米軍からテレビへの転身に関して考察した。

また、彼による性暴力の問題についても検討を加え、「パンパン」と呼ばれた街娼をはじめとする占領下の米軍による一連の性暴力との類似性を指摘した。「パンパン」もジャニー喜多川の被害者たちも、性暴力被害の一方で「豊かさ」や「デビュー」という夢を掴んでもいったが、ジャニー喜多川の性暴力には、強制的な性暴力という側面と、芸能界での夢の実現という側面の両義性があった。加えて、こうした暴力と夢・豊かさとの連続性（性暴力連続体 Continuum of Sexual Violence）は、ポスト占領期におけるテレビ（夢）の導入と米軍（暴力）の連続性とも同型的であることも指摘した。これにより戦後日本の放送メディアとアメリカナイゼーションの関係について明らかにし、その結果は、2件の報告と2件の論文（うち1件は次年度出版予定）などによって発表した。

#### ※研究成果の発表・著書、論文、学会報告等（あるいは発表の計画や形式等）

##### 論文

1. 周東美材「ジャニーズと二つの東京オリンピック——1990年代半ばにおける国家意識の形成とバレーボール」遠藤薫編著『学習院大学東洋文化研究叢書 現代日本の〈国家意識〉とアジア——二つの東京オリンピックから考える』勁草書房、170頁-193頁、2024年8月
2. 周東美材「「アメリカ」の夢と暴力——歴史のなかのジャニーズ性加害問題」周東美材ほか編著『「帝国」・身体・ジェンダー（仮）』出版予定

##### 発表

1. 周東美材，金成玫，吉光正絵，林凌「大衆音楽の本流を問う——ポップス、アイドル、マスメディア」日本ポピュラー音楽学会 2024年度第5回例会、2024年10月12日
2. 石原慎司，朝山奈津子，越懸澤麻衣，奥中康人，周東美材，須田珠生「異文化と自文化の間にある戦前の「日本の歌」を考える」日本音楽学会第92回定例研究会 2024年8月10日
3. 加藤晃彦，税所玲子，周東美材，林香里，荻上チキ，松尾理也，田中東子「性暴力とメディア報道——ジャニー喜多川による性加害問題を端緒として」日本メディア学会 2024年春季大会、2024年6月15日
4. 周東美材「米軍基地からテレビへ——1960年代におけるジャニーズの誕生」20世紀メディア研究所第176回研究会、2024年5月25日

##### その他

1. 周東美材「ジャニーズの性加害問題をどうとらえるか——忘れていた「占領」の記憶」『子どものからだと白書 2024』、26頁-28頁、2024年12月
2. 周東美材「ジャニーズとふたつの東京オリンピックのあいだ」『波』58(6)、14頁-15頁、新潮社、2024年5月

〔注〕 文責は貴研究グループに負っていただきます。個人情報等には十分ご注意ください。